

経営比較分析表（令和6年度決算）

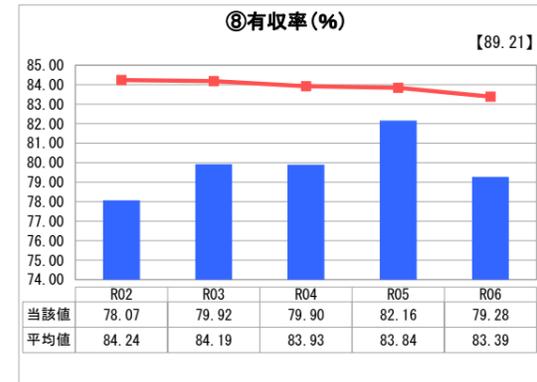
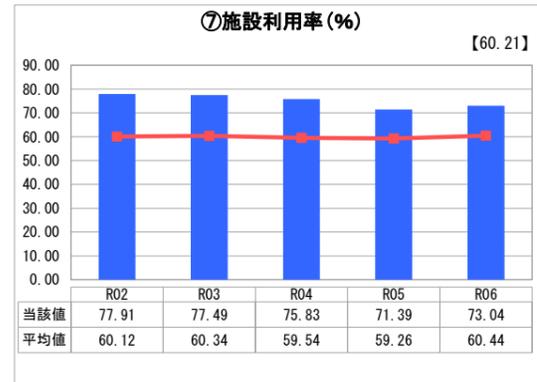
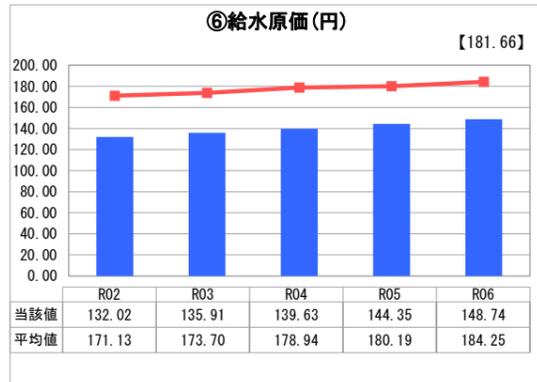
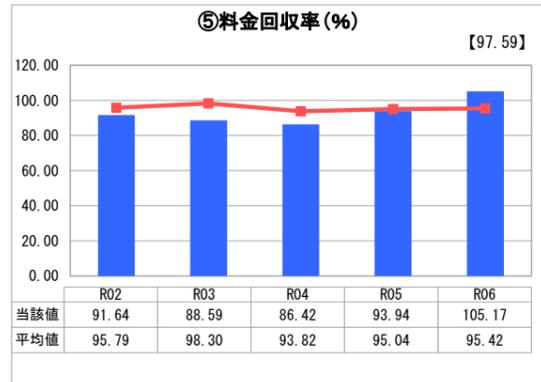
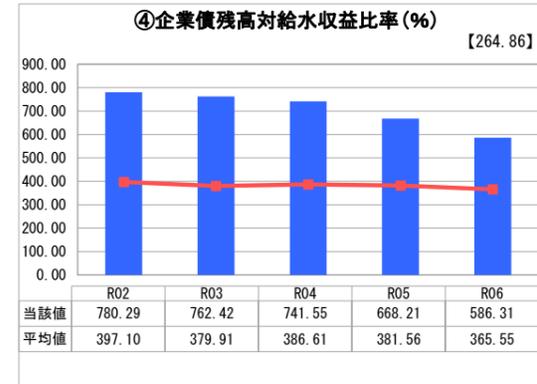
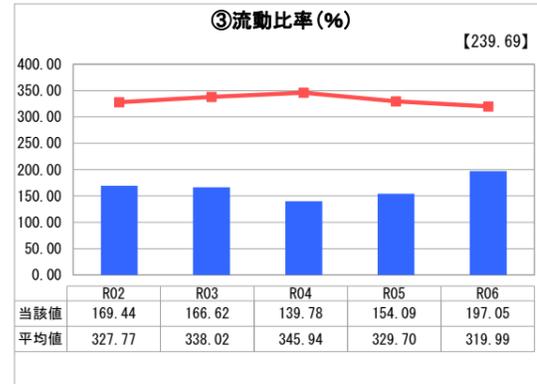
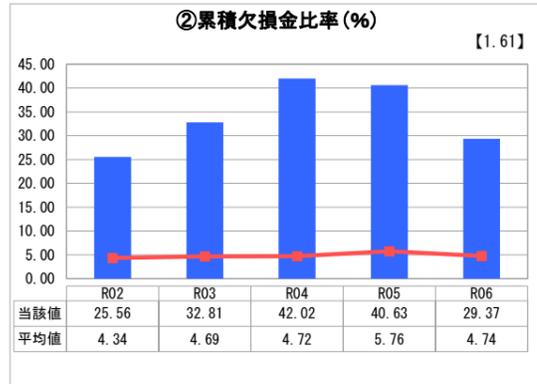
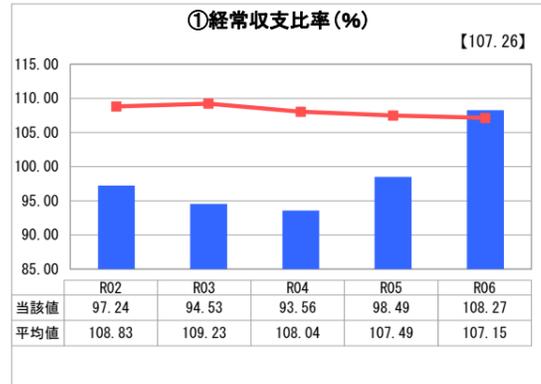
宮崎県 小林市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	45.40	94.05	3,113	

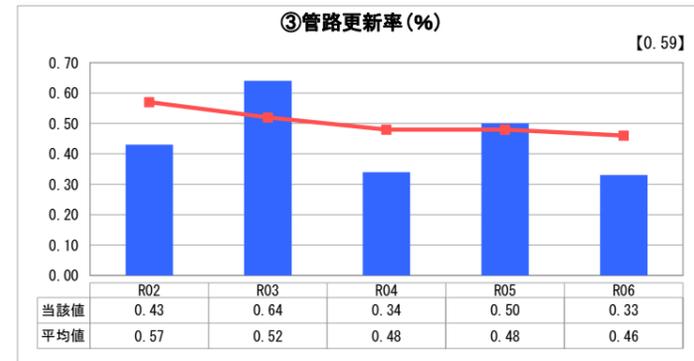
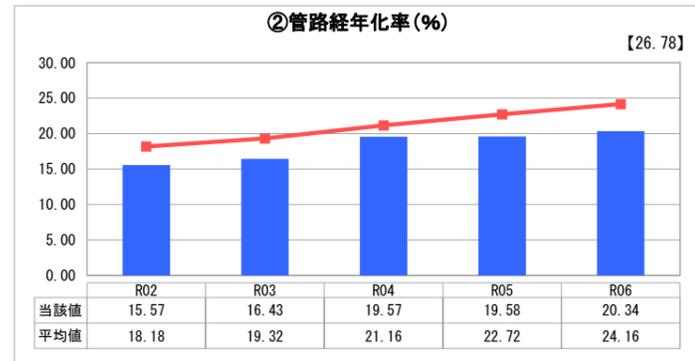
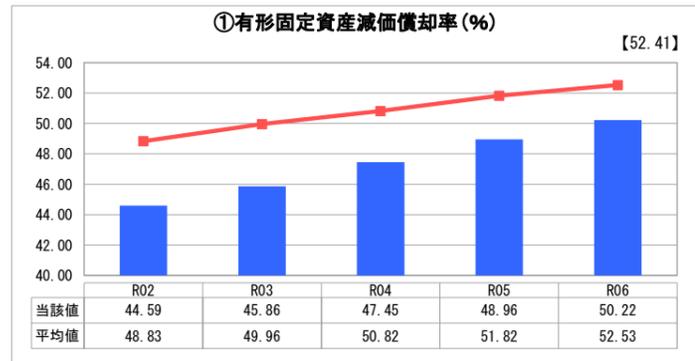
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
42,075	562.95	74.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,124	231.30	169.15

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、前年度と比較して9.78ポイントの増となり、健全経営の水準とされる100%を上回りました。②累積欠損金比率は、前年度から11.26ポイントの減になり改善傾向が見られましたが、平成30年度に統合した簡易水道事業の累積欠損金の増加による影響で、平均値を上回っている状況です。③流動比率は、前年度から11.23ポイントの増で100%を上回りました。④、⑤の指標については、令和5年9月使用料分から料金改定を行ったことにより改善したものと考えられます。しかし、給水人口の減少に伴う給水収益の減少、更に施設の更新費用等の維持管理費の増加は今後も見込まれることから、新たな経営改善の取組が検討課題となっています。⑥企業債残高対給水収益比率は、令和2年度から減少していますが、類似団体及び全国の平均値を上回った状況は継続しています。⑦給水原価は、類似団体の平均値を下回っているものの、今後も経常費用の増加が見込まれるため年々上昇すると思われます。⑧施設利用率は、平均値を上回った状態を維持していますが、給水人口の減少と、経営の効率性を考慮して、施設規模の見直しも必要と考えます。⑨有収率は、令和5年度に増加しましたが、令和6年度は前年度から2.88ポイント減となりました。老朽化した配水本管の布設替えや漏水調査に基づく修繕に努めたものの、管路の老朽箇所等からの漏水が増えたものと考えられます。

2. 老朽化の状況について

平成30年度に簡易水道事業と統合し、有形固定資産及び管路延長が大幅に増大しました。①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率ともに令和元年度以降緩やかに上昇、③管路更新率は低い値で増減しておりますが、令和6年度は前年度と比べ0.17ポイントの減となりました。今後さらに耐用年数に達した資産や管路が増大していくことが見込まれるため、経過年数や管種、漏水発生状況等を勘案し計画的かつ効率的に更新を実施していく必要があります。老朽化に更新が追いつかない状況を避けるため、施設更新時には規模の見直しや効率化を考えた投資計画に取り組みます。

全体総括

平成30年度に簡易水道事業と統合し、経営状態の悪化が継続していましたが、令和6年度は黒字転換となり、各指標にも改善傾向が見られました。料金改定の実施により、財源の確保については見通しが立ったものの、給水人口の減少に伴う給水収益の減少は今後も進むと予測され、近年の資材費高騰等による費用の増加も経営に大きな影響を及ぼすものと考察します。安定的に事業を継続していくため、令和6年度に改定した小林市水道事業経営戦略に基づき、経営改革（料金改定、広域化、民間活用・効率化、事業廃止等）の検討も含め、効率的な財政運営と計画的な施設整備に努めていきます。